

200カイリ水域内漁業資源総合調査事業－Ⅲ (資源評価調査委託事業：トビウオ資源動向調査)

天野 裕平

【目的】

鹿児島県、長崎県、佐賀県の3県連携によりトビウオの長期的な資源動向を把握するとともに、鹿児島県内及び長崎県内の主要産地の漁獲物から生物学的特性を把握する。

【方法】

3県の漁獲データ（平成18年までは農林水産統計，平成19年以降は各県調べ）を基に資源状況及び資源動向について検討を行った。

鹿児島県及び長崎県の主要産地よりサンプルを入手し，体長・体重・生殖腺重量を測定した。

【結果及び考察】

九州南部海域（鹿児島県）における平成28年のトビウオ類の漁獲量は，県水産技術開発センター調べで800トンであった。昭和62年以降概ね1,500トン前後を横ばいで推移していたが，平成17年以降は減少傾向を示している（図1）。

また，九州北西部海域（長崎県＋佐賀県）におけるトビウオ類の漁獲量は年変動が大きく，農林統計によると昭和51年以降，約500～3,500トンの間を推移しており，平成28年の漁獲量は長崎県，佐賀県調べによると1,807トンであった（図2）。また，平成28年の未成魚の漁獲量は185トンで，漁獲された未成魚の種組成では，平成27年と同様にホソトビウオが多くを占めた。

鹿児島県に関係するトビウオ類3種の漁獲動向については以下のとおり（図3）。

○ハマトビウオ（銘柄：大トビ）

九州南部海域の標本漁協（屋久島漁協）における平成28年の漁獲量は221トンと前年並（前年比91%）で，平年を下回った（平年比52%）。

○ツクシトビウオ（銘柄：中中トビ）

九州北西部海域の標本漁協における産卵親魚の漁獲量は前年並で，平年を下回った。九州南部海域の標本漁協（屋久島漁協）における平成28年の漁獲量は3トンと前年（前年比38%）・平年（20%）を下回った。

○ホソトビウオ（銘柄：小トビ）

九州北西部海域の標本漁協における産卵親魚の漁獲量は前年を上回り，平年を下回った。九州南部海域の標本漁協（屋久島漁協）では平成28年にまとまった漁獲は見られなかった。

以上の3県の漁獲動向等をもとに主要3種の平成28年の資源水準及び資源動向は以下のとおりと推測した。なお，資源水準は過去の3県総漁獲量の最大値と最小値の間を3分割し，各水準の指標としている。

ハマトビウオ	低位水準	横ばい傾向
ツクシトビウオ	低位水準	横ばい傾向
ホソトビウオ	低位水準	減少傾向

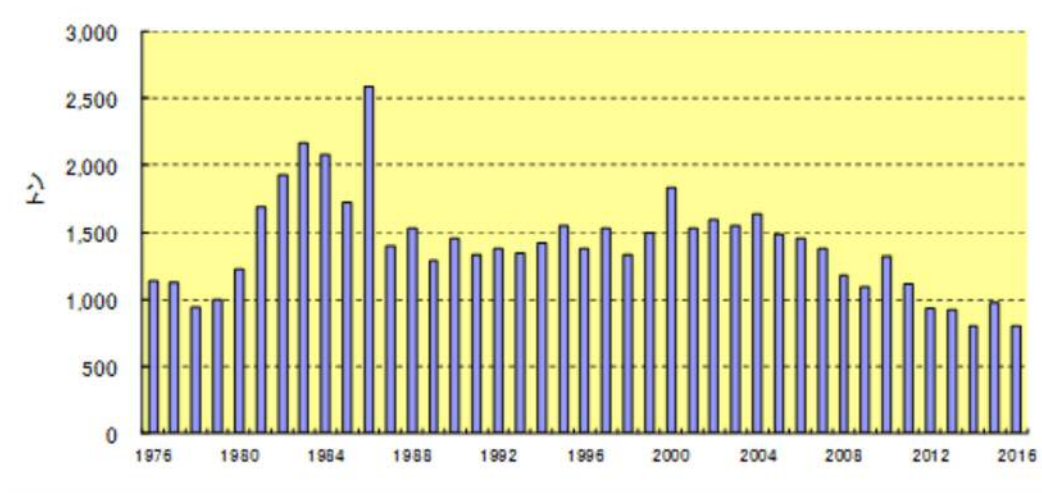


図1 鹿児島県のトビウオ漁獲量の推移

(平成18年までは農林水産統計年報, 平成19年以降は水産技術開発センター調べ)

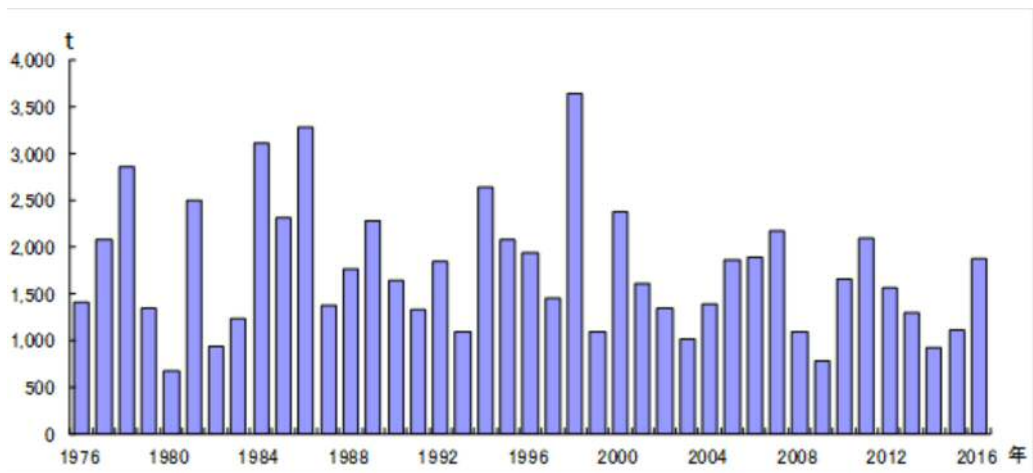


図2 昭和51年以降の九州北西部海域のトビウオ類漁獲量

(平成18以前は長崎県及び佐賀県の農林統計, 平成19年以降は長崎県総合水産試験場, 佐賀県玄海水産振興センター調べによる)

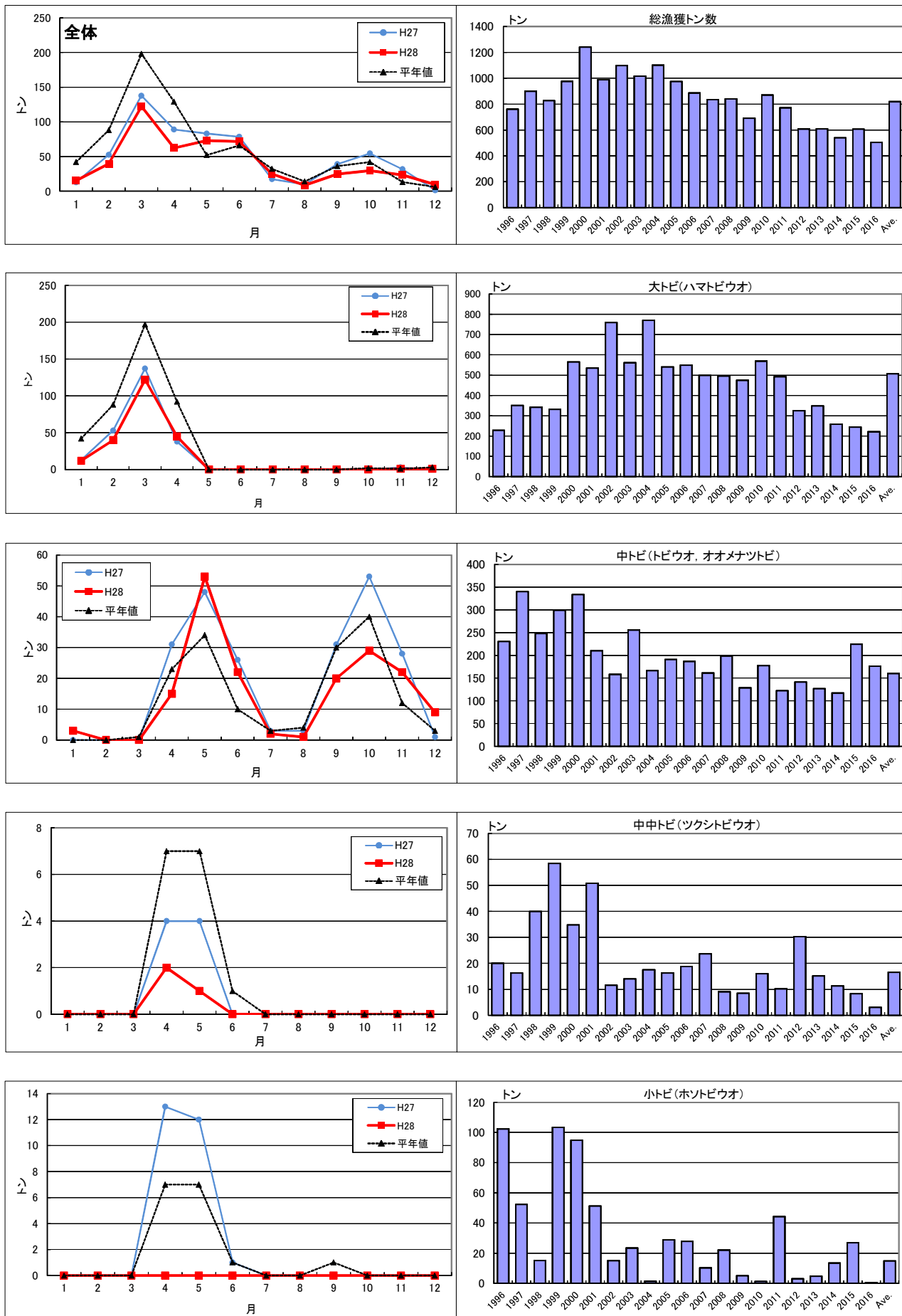


図3 屋久島漁協におけるトビウオ類漁獲量の月変化及び経年変化(1)

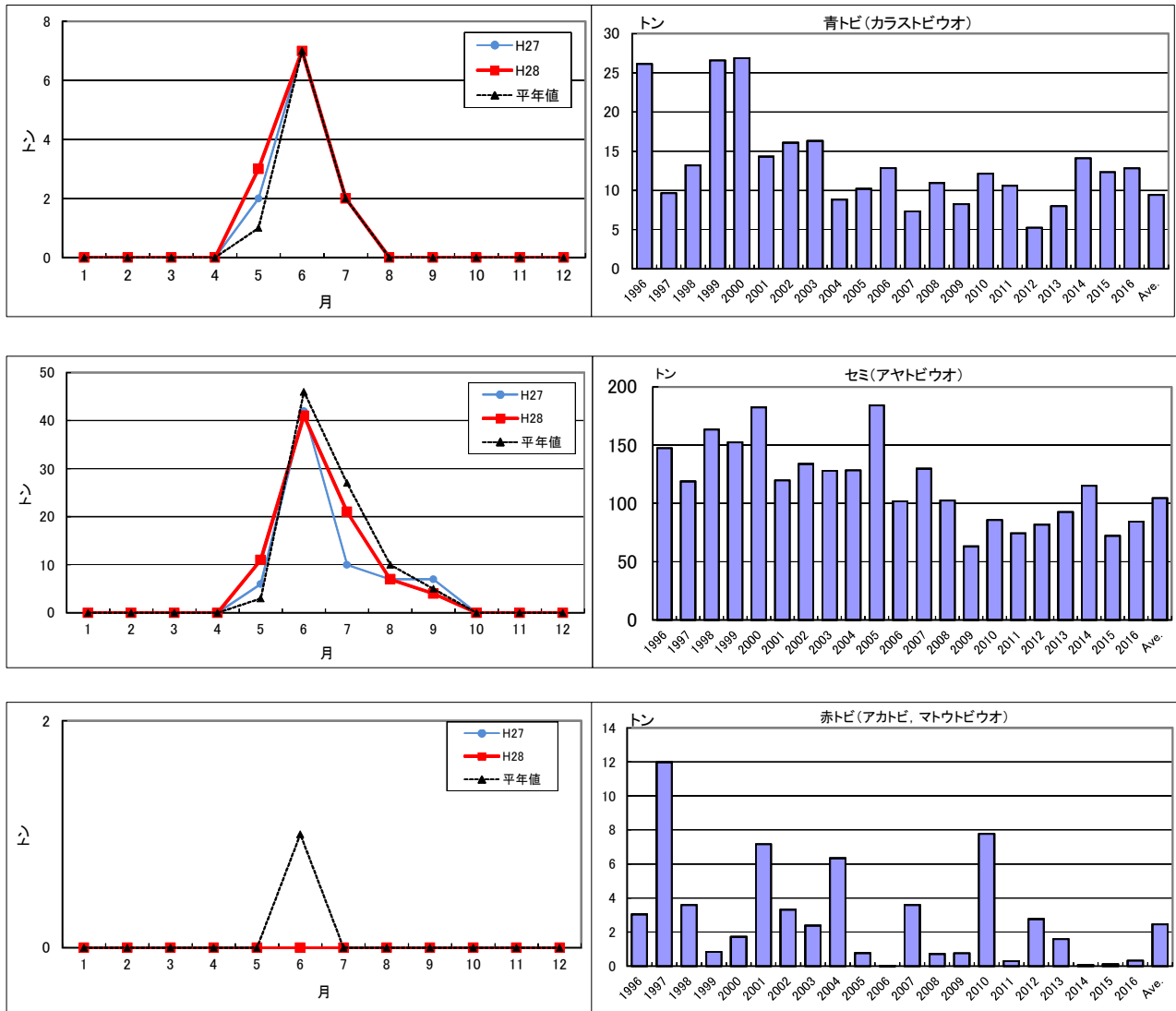


図3 屋久島漁協におけるトビウオ類漁獲量の月変化及び経年変化(2)